

日本共産党大田区議会議員

あらお大介活動ニュース

発行：あらお大介事務所 〒146-0093 大田区矢口1-23-27
 携帯 090-7328-9567 FAX 03-3757-9883
 ご意見・ご要望をお寄せください。



被爆から70年 原水爆禁止世界大会in広島に参加



8月4日～6日の3日間、広島市で開催された原水爆禁止2015年世界大会に参加しました。被爆と終戦から70年という節目の年に広島を訪れることができたことは、私にとって大変意義深いものでした。

世界大会では、被団協の坪井直さんのリアルな被爆体験と俳優の宝田明さんの力強い連帯メッセージ、世界各国の代表の皆さんによる非核の訴え、被爆者の方々からの切実な核兵器廃絶の訴え、福島から原発事故を受けての現状や取り組み、日本各地での核廃絶や平和活動等が報告され、私自身とても励まされました。特に若い人たち（高

校生）のメッセージは素晴らしいものでした。

被爆者の平均年齢が80歳を超える中で、いかにして次の世代に被爆の実相を伝えていくか、そのために今私たちが何をすべきかを学びました。

世界中の多くの人々が切に平和を願っていることをこの3日間で感じとることができたのは大きな喜びであり、未来に希望が持てた世界大会でした。

戦争法案絶対反対!! 8・16若者デモ@おおた

8月16日に西蒲田公園にて「8・16若者デモ@おおた」（大田若者デモ実行委員会主催）が開催されました。

多くの若い方々をはじめ、老若男女問わず様々な方々が思い思いに声をあげ、戦争法案反対を訴えていました。

集会後に蒲田の街をパレードしながら練り歩き、ドラム隊の激しいリズムに合わせて、参加した皆さんが「タマラン、タマラン、オータマラン!!」と元気にコールをして、戦争法案反対と安倍政権打倒の声を街中に響かせていました。

高校生を含む若い人たちがこの運動の中心に立ち、政治を変える大きな力になるうとしています。将来に希望を感じることができた、素晴らしいパレードでした。



Facebook、Twitterもご覧ください。メールでのご相談お気軽に。

ホームページ・ブログ：<http://araodaisuke1226.jcp-ota.jp/>

メールアドレス：daisuke-arao@jcp-ota.jp

Twitter：[@araodaisuke](https://twitter.com/araodaisuke)

Facebook：<https://www.facebook.com/araodaisuke>

介護保険要支援者の切り捨てをやめて 現行サービスの充実を

大田区が来年度に介護保険「新総合事業」を導入するにあたり、これまでのさわやかサポート(地域包括支援センター)の機能強化と老人いこいの家の再構築をするために「大田区シニアステーション事業(仮称)」を田園調布、領町の2地域で試験的に実施されることが発表されました。

この「シニアステーション事業」では、さわやかサポートと老人いこいの家を1か所にまとめて、それに新規事業である「通所型介護予防事業」を加えるというもので、その担い手としてシニアボランティアを活用するといった内容になっています。

大田区は高齢者の元気維持・介護予防から最適な介護サービスへのシームレス(切れ目のない)な支援を提供することを目的としています。結論のとき

ろ厚生労働省が示したガイドライン(指針)に添った「安上がりなサービス」を導入するのが目的のようです。

要支援者の方が受ける介護予防サービスのうち、訪問サービスと通所サービスを市区町村が実施する地域支援事業に移行されることになり、現行サービス継続を望む声も少なからず聞かれます。ボランティアを担い手とすることで現行サービスの質が確保できるのか、という新たな問題も起こりうることを考えられます。

国の方針や地域の事情もそうですが、まずは「利用者のニーズ」を最優先に考えるべきではないでしょうか。介護報酬の削減によって各事業所が厳しい運営を強いられている中で、その影響が利用者の方へも及んでいます。だれもが安心できる介護

保険サービス実現に向け、今後もこの問題に取り組んでまいります。

中学校歴史・公民教科書 育鵬社版採択されず!

8月6日に大田区立の小中学校で来年度から4年間使用する教科書が採択され、中学校の歴史・公民は東京書籍版となりました。

今年度まで大田区では23区中唯一育鵬社版教科書を使用していますが、これは過去の戦争を賛美して歴史の真実を歪める教科書を使わせないという区民の皆さんの共同の運動の成果であります。



保健福祉委員会 平成27年7月15日 福祉部 資料33番 所管 高齢福祉課

(仮称) 大田区 シニアステーション 事業実施方針

目的
高齢者の元気維持・介護予防から最適な介護サービスへの切れ目のない支援を提供する。

大田区 シニアステーション事業
★多機能の連携による切れ目のないケア体制

■高齢者の元気維持	■総合相談	■介護予防
・社会参加の推進	・高齢者及びその家族に対する相談	・通所型介護予防事業の実施
・高齢者の交流(サロン)	・相談窓口	

※新総合事業: 市区町村が中心となって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参加し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とするを目的とする。
【介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施を図るための指針(平成24年厚生労働省告示第86号)より】

現在

<さわやかサポート(地域包括支援センター)>

- 設置目的: 区内全ての高齢者やその家族に対して、総合相談窓口(包括的支援事業)としてワンストップでのサービスを提供。(年間延べ相談件数: 約15万件)
- 施設数や設置場所: 20施設(受託法人の施設内設置=19施設、区施設内設置=1施設)

<老人いこいの家>

- 設置目的: 高齢者の心身の健康増進及び社会参加のきっかけとなることを目的とする。
- 施設数や設置場所: 区内21施設(単独=13施設、区施設内併設=8施設)

機能強化

再構築

平成28年度

<大田区シニアステーション事業>モデル実施!

- 主な実施業務:
 - ・高齢者の総合相談窓口等(包括的支援事業=地域包括支援センターの業務)
 - ⇒総合相談支援業務、権利擁護業務、介護予防マネジメント業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
 - ・生活支援コーディネーター業務
 - ⇒多様な主体による様々なサービスの調整
 - ・高齢者の社会参加・交流の場(サロン)を適した元気維持
 - ・通所型介護予防事業の実施(シニアボランティアを担い手)
 - ⇒介護予防事業の実施によって、正確かつ円滑な要介護者の把握を行うことで、最適なケアプラン作成を実現。
 - 介護予防から介護支援までの切れ目のない一体運営。

※28年度は、田園調布・領町で事業実施。

今後の予定

8月30日(日) 国会前10万人集会

9月11日(金)~10月9日(日) 区議会第3回定例議会

介護保険要支援者の切り捨てをやめて 現行サービスの充実を

大田区が来年度に介護保険「新総合事業」を導入するにあたり、これまでのさわやかサポート(地域包括支援センター)の機能強化と老人いこいの家の再構築をするために「大田区シニアステーション事業(仮称)」を田園調布、嶺町の2地域で試験的に実施されることが発表されました。

この「シニアステーション事業」では、さわやかサポートと老人いこいの家を1か所にまとめて、それに新規事業である「通所型介護予防事業」を加えるというもので、その担い手としてシニアボランティアを活用するといった内容になっています。

大田区は高齢者の元気維持・介護予防から最適な介護サービスへのシームレス(切れ目のない)な支援を提供することを目的としています。結局のところ厚生労働省が示したガイドライン(指針)に添った「安上がりなサービス」を導入するのが目的のようです。

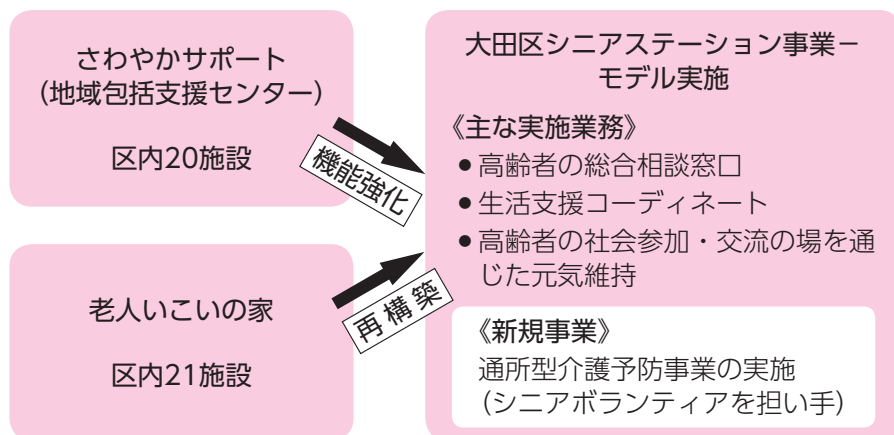
要支援者の方が受ける介護予防サービスのうち、訪問サービスと通所サービスを市区町村が実施する地域支援事業に移行されることになり、現行サービス継続を望む声も少なからず聞かれます。ボランティアを担い手とすることで現行サービスの質が確保できるのか、という新たな問題も起こりうることを考えられます。

国の方針や地域の事情もそうですが、まずは「利用者のニーズ」を最優先に考えるべきではないでしょうか。介護報酬の削減によって各事業所が厳しい運営を強いられている中で、その影響が利用者の方へも及んでいます。

だれもが安心できる介護保険サービス実現に向け、今後もこの問題に取り組んでまいります。



(仮称) 大田区シニアステーション事業実施方針



中学校歴史・公民教科書 育鵬社版採択されず!

8月6日に大田区立の小中学校で来年度から4年間使用する教科書が採択され、中学校の歴史・公民は東京書籍版となりました。

今年度まで大田区では23区中唯一育鵬社版教科書を使用していますが、これは過去の戦争を賛美して歴史の真実を歪める教科書を使わせないという区民の皆さんの共同の運動の成果であります。

今後の予定

8月30日(日)

国会前10万人集会

9月11日(金)～10月9日(金)

区議会第3回定例議会

